

# 民主主義の底力発揮

「大阪都」構想は、橋下徹という希代の大衆扇動家、印象操作をするのが非常に上手な政治家がつくり上げた虚構といえます。

## 劣化メディア

民主主義との関係で教訓になったのは、メディアの劣化です。批判をしない。なぜか。脅しが利いているからです。メディアを攻撃し、学者を攻撃し、それを見た人間が声を上げられないような社会をつくってきた。そ

## 森裕之・立命館大学教授



れが「都」構想をめぐる全体主義の過程です。投票用紙もひどかった。「大阪市における特別区の設置について」賛成か、反対か。これを見ると大阪市は残ると思ってしまう。

かという住民投票で反対派は勝てるものじゃない。それを勝ち抜いたのは大きな意味があると思います。

地域的には、市北部と南西部で分かれました。北部は若年層が多く、転勤する人も多い。南部は高齢者と定住者が多い。出口調査をみると、若年層は賛成に、高齢者は反対に投票した傾向が見られました。

メディアは直後から高齢者と若者の対立をあおろうとしています。しか

## 新しい大阪へ

さらば維新政治

し、若年層には棄権者も多く、賛成が圧倒的というわけではない。そういう対立構図であおるのは間違いだと思えます。

高齢者には変わりたくないという保守的な面もあると思います。一方で、人生の経験から、うさんくささや危険な雰囲気を感じ取った人もいたはずです。

住民投票は左右の思想

関係なく、民主主義を全体主義から守る超党派でのたたかいでした。市民社会が崩壊するかどうかの時に左右は関係なくなります。

## 沖繩と同構図

投票日直前、安倍晋三首相が関西にきました。私たちが一番恐れたのは橋下氏とのツーショットです。自民党の府連は必死でそれを防ぎました。これは官邸と府連が分裂しているということであり、沖繩の構図と全く同じです。

いろんな市民、団体も立ちあがりました。われわれ学者も記者会見や市民向けに説明会をやりま

した。京都大学大学院の藤井聡教授と私が呼びかけ人になって、1週間ですら100人を超える人が所見を寄せてくれました。

住民投票での反対派の勝利の意味は、地方自治の力が民主主義の壁となり、全体主義の暴走を止めたことです。

第2、第3の大衆扇動家が出てくると思いますが、今回一番教訓となったのは、民主主義をもう一度鍛え直さないとけないということ。市民一人ひとりが歴史を学びなおし、社会を理性的に批判的にみる姿勢を取り戻さないといけません。

(23日、京都市で)